

言語聴覚士による 訪問リハが始ります

言語聴覚士とは

★話す、聞く、食べる、のスペシャリスト

★ことばによるコミュニケーションに問題がある方、
摂食・嚥下の問題ある方に対し専門的サービスを提供し
自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。

摂食・嚥下障害



(例) 食事のとき、水を飲むときなどによくむせる

まずは、ゼリーや水分を使用して飲み込みの評価を行い、食べる際に必要な機能を維持・向上できるよう訓練します。

また、安全に食事が行えるように食形態の調整や姿勢調節、食事介助方法のアドバイスも行います。

(例) 言葉がうまく出てこない、
呂律がまわらず喋りにくい

失語症で言葉がうまく出ない、理解力の低下などに対して、発話練習や読解訓練、コミュニケーション指導などを行います。

構音障害などの話しにくさに対しては、言葉話す際に必要な機能の維持・向上できるよう訓練します。同時に話し方の工夫などもアドバイスします。



言語障害
(失語症・構音障害)

高次脳機能障害(注意障害、記憶障害など)



(例) ・おぼえられない＝記憶障害
・物事に集中できない＝注意障害
・道具が上手く使えない＝失行
・いきあたりばったりの行動をする
＝遂行機能障害

文字や図形・絵カードなどを使用し、高次脳機能障害を改善させる訓練を行います。また生活場面に即した訓練やアドバイスも行います。

(例) 忘れっぽい 興味や意欲の低下 感情の起伏
心理面や記憶面などを総合的に評価します。
脳を活性化させるリハビリや生活面でのアドバイスを
行います。

☆認知症のリハビリ例

- ・古い記憶を引き出し、脳を活性化させる「回想法」
- ・計算を解いたり文章を音読したりする「学習療法」

認知症



2名の言語聴覚士が在籍



私達言語聴覚士は、聞こえや言葉の障害、食事に
関する問題について訓練や指導、助言を行います。

機能評価を行い、各個人それぞれに応じた機能訓
練や食物形態の変更、環境調整などに取り組んでま
いります。

ここで、ご家庭で出来る嚥下体操の一部をご紹介
します。額に手を当てて、抵抗しあうように互いに(額と
手)を押し合い、1～5までゆっくりと数を数えながら、
おへそをのぞき込むように力を入れて下を向きます。
これを5～10回行います。その他に頬の膨らましと
窄め動作を交互に繰り返したり、舌を上下・左右に伸
ばしたり、唾液腺マッサージ等があります。このよう
に嚥下だけでなく言葉や書き字などの訓練も提供しま
す。

認知症の要因の中には、予防できるリスク要因
が9つあります。①高血圧②糖尿病③肥満④難聴

⑤教育⑥社会的孤立⑦喫煙⑧うつ⑨運動不足

なかでも、難聴が最も大きな危険因子とされてい
ます。音の刺激や脳に伝えられる情報量が少ない
状態にさらされてしまうと、脳の萎縮や神経細胞
の弱まりが進み、認知症の発症に影響します。

補聴器をつけるなどして難聴に正しく対処し、適切
な「聞こえ」を維持して脳を活性化し、さらに家族や
友人とコミュニケーションを楽しんでいれば認知
症の予防や発症を遅らせる可能性が高くなります。

また、睡眠不足も認知症の要因となります。睡眠
でお悩みの方のご相談もお待ちしております。

嚥下訓練



唾液腺のアイスマッサージ



言語訓練



オレンジカフェ(岩知野公民館)

